

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
畑医院	鶴見区市場西中町6-23	501-2019
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
いわた内科クリニック	神奈川区二ツ谷町6-3 雷鳴堂ビル2F	317-8166
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷3-23-33	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスプラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストプラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科医院	青葉区あざみ野1-26-10	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルデセゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ 1F-B	805-6685
ひらの内科クリニック	瀬谷区二ツ橋町304-1 ヒラノメディカルスクエア1F	392-2622
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11 ココファン横浜鶴見1F	506-3657
優美子供クリニック	鶴見区駒岡5-5-12 武田メディカルビルディング4階	576-6226
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
はたの東神奈川キッズクリニック	神奈川区東神奈川2-42-5 ゴールデン東神奈川ビル201	451-0111
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアークビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
かめのはしクリニック	中区石川町3-108-1	226-2818
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町字前田144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
中村クリニック	南区井土ヶ谷下町28-16	720-1266

医療機関名	所在地	電話番号
みやじ小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 ストーク大通り公園参番館201号	261-0737
小島小児科	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 カミオ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
はせがわこどもクリニック	旭区笹野台1-1-36 城田ビル1F	360-0755
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ビル102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
二俣川こどもクリニック	旭区二俣川2-50-14 コプレ二俣川7F	366-0505
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16 1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14 金沢八景金井ビル3F	350-6277
横浜南共済病院	金沢区六浦東1-21-1	782-2101
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
あい診療所	港北区鳥山町1018	595-9481
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
十日市場こどもクリニック	緑区十日市場町801-8 ホームストッププラザ十日市場 東館 2F	983-1018
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山5-29-18	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぼっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はるの木こどもクリニック	青葉区藤が丘1-14-49 横浜藤が丘NBIビル2A	972-0088
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ヶ崎中央6-1 サウスウッド3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレラ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央クリニックビル3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・テ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
なごみクリニック	瀬谷区二ツ橋町489-45	360-8183
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARビル3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストービル秋山1F	260-6726
みやざき眼科クリニック	港南区日限山1-57-40	829-0223
星川眼科クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル3F	336-3883
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-5 二俣川北口第2ビル2F	363-1102
磯子うすい眼科	磯子区森1-9-1 アクロスキューブ磯子3F	751-1122
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ヴィラ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
スマイル眼科クリニック	青葉区青葉台1-6-12 カンゼームビル4F	988-4912
ニュータウン北眼科	都筑区中川中央1-31-1-4123 モザイクモール港北4F	482-3334
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライフビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイズビル3F	584-8233
鶴見皮膚科泌尿器科	鶴見区鶴見中央1-10-17 カパラー鶴見101	501-7181
やました泌尿器科・皮膚科クリニック	神奈川区六角橋1-13-1 ビッグ・ライズビル六角橋1F	439-2022
大石レディースクリニック	神奈川区片倉2-1-21 大石医療ビル1F	481-1101
横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮膚科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クホタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
メディカルパーク二俣川	旭区二俣川2-50-14 コブレ二俣川8F	459-5008
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
産婦人科クリニックさくら	青葉区新石川2-9-3	911-9936
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖マリアクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アピテノール3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
おおご泌尿器科クリニック	栄区小菅ヶ谷1-5-1	410-8015
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
横浜市立市民病院（基幹）	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
秋山眼科医院（眼科）	中区尾上町3-28	641-9361
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルタ'2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック（内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
はっとり小児科（小児科）	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
ひかりこどもクリニック（小児科）	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

疑似症定点(10)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市東部病院	鶴見区下末吉3-6-1	576-3000
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
けいゆう病院	西区みなとみらい3-7-3	221-8181
横浜市立みなと赤十字病院	中区新山下3-12-1	628-6100
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	南区浦舟町4-57	261-5656
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
横浜市立大学附属病院	金沢区福浦3-9	787-2800
横浜労災病院	港北区小机町3211	474-8111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日 衛感第 340 号 (局長決裁)

最近改正 令和 5 年 5 月 26 日 医健第 2035 号 (局長決裁)

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」(以下「国要綱」という。)を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。)、(12) 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。)、(13) 鳥インフルエンザ (H5N1)、(14) 鳥インフルエンザ (H7N9)

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) エムポックス、(25) 黄熱、(26) オウム病、(27) オムスク出血熱、(28) 回帰熱、(29) キャサヌル森林病、(30) Q 熱、(31) 狂犬病、(32) コクシジオイデス症、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。)、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く。)、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兎病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑

熱

五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(113)新型インフルエンザ、(114)再興型インフルエンザ、(115)新型コロナウイルス感染症、(116)再興型新型コロナウイルス感染症

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(91)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(92)感染性胃腸炎、(93)急性出血性結膜炎、(94)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(95)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(96)新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）、(97)水痘、(98)性器クラミジア感染症、(99)性器ヘルペスウイルス感染症、(100)尖圭コンジローマ、(101)手足口病、(102)伝染性紅斑、(103)突発性発しん、(104)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(105)ヘルパンギーナ、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症、(110)流行性角結膜炎、(111)流行性耳下腺炎、(112)淋菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

(117)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

法第 14 条第 8 項の規定に基づく把握の対象

(118)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断し、都道府県知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第 14 条第 8 項に基づき届出を求めたもの。

第 3 実施主体

実施主体は、医療局健康安全課（以下「医療局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第 4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、医療局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 医療局は、定点把握対象の感染症について、患者及び当該感染症により死亡した者（法第 14 条第 1 項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。）の情報及び疑似症情報を収集するため、法第 14 条第 1 項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2) 医療局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第 7 条の 3 に規定する五類感染症については、法第 14 条の 2 第 1 項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び医療局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

4 検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体

等の検査の業務管理要領」(健感発 1117 第 2 号平成 27 年 11 月 27 日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。)に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、医療局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

第 5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第 2 の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

国要綱に定めるとおりとする。感染症サーベイランスシステム(以下、「システム」とする。)への入力により届出を行うことを基本とするが、入力環境がない場合には書面による届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあつては、検体等について、別記様式 1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)」(以下、別記様式 1 という。)の検査票を添付して提供する。

ウ 福祉保健センター

- (ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、届出をシステム上または書面で受け付ける。書面による届出の場合、感染症情報センター及び医療局に送付する。
- (イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式 1 を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び医療局と協議する。
- (ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式 1 を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式 1 等により速やかに送付する。
- (オ) なお、迅速な対応が必要な疾患については、医療局と協議の上、対応する。

エ 医療局

- (ア) 医療局は、福祉保健センターがウ(ア)による届出を受け付けた場合、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 医療局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報

提供し連携を図る。

- (ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。
- (エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。
- (オ) 迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行うウ(イ)から(エ)までの対応は、医療局が行う。
- (カ) 医療局は横浜市外に居住する者について、法第 12 条第 1 項の規定による届出を受けたときは、該当届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県等に通報する。
- (キ) 医療局は厚生労働省に対して、法第 12 条第 1 項の規定による届出の一連の事務の中で同条第 2 項の報告を行う場合、または、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合は併せて神奈川県へ報告する。
- (ク) 医療局は横浜市外における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を当該都道府県等へ通報する。
- (ケ) (キ)の法第 12 条の規定による報告について、システムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じることで、厚生労働省及び神奈川県へ当該報告をしたものとみなす。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターがウ(ア)による届出を受け付けた場合、直ちに、届出情報の確認を行う。書面による届出の場合、届出内容をシステムに入力する。情報について医療機関に確認が必要な場合には医療局または福祉保健センターへ情報提供を行う。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、医療局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあつては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を別記様式 1 により福祉保健センターに送付する。福祉保健センターは、別記様式 1 により診断した医師に通知する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、医療局は横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、医療局は医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を報告する。システムへの入力により報告を行うことを基本とするが、入力環境がない場合には書面により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告を行う。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採用する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式2「病原体定点からの検査依頼書」(以下、「別記様式2」という。)を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

(ウ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第2の(88)から(97)に

- ついて、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類を送付する。
- (エ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第2の(98)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、医療局の定める単位ごとに送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1を添付して提供する。

エ 福祉保健センター

- (ア) 福祉保健センターは、ア(イ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び医療局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び医療局と協議する。
- (イ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1により速やかに送付する。

オ 医療局

医療局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行う。書面による報告の場合、システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、医療局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式2及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式2により病原体定点に通知するとともに、医療局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 衛生研究所は、エ(イ)により別記様式1及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果は福祉保健センターを經由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、医療局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (ウ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

(1) 対象とする疑似症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、医療局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則としてシステムへの入力により実施することとする。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 医療局

医療局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合におい

ては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点においてシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、システムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、医療局および中央感染症情報センターへ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、医療局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

第6 その他

1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

2 本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて医療局長が定めることとする。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 7 月 21 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和5年5月8日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和5年5月26日から施行する。

別記様式一覧表

別記様式1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式2 病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

(医療機関控)

(衛生研究所控)

(医療機関あて検査結果通知用)

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 令和5年3月28日 健健安第8825号（局長決裁）

（設置）

第1条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき、法第12条から第15条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第3条 委員会は、委員6人以上10人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから医療局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第6条 委員会の会議は、委員長が毎月1回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第7条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、医療局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

令和5年1月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は横ばい～減少傾向ですが、引き続き今後の動向に注意が必要です。
- インフルエンザ、感染性胃腸炎などの感染症が増加しています。
- 梅毒は20代～30代の若い世代を中心に、高い水準で続いています。妊婦の報告もみられます。

◇ 全数把握の対象

<1月期に報告された全数把握疾患>

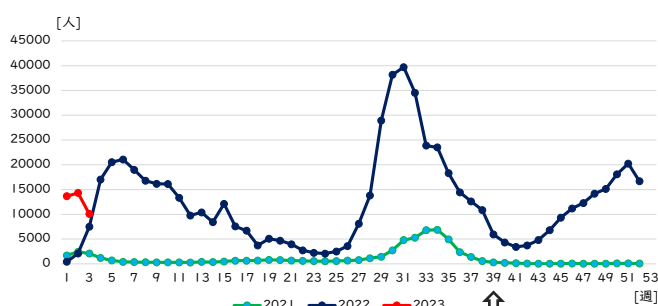
腸管出血性大腸菌感染症	5件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
つつが虫病	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバパネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	18件
急性脳炎	1件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代～30歳代で、血清群O26が3件、O157が1件、不明が1件です。経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 2 **E型肝炎**: 30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 **つつが虫病**: 60歳代で、国内での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
- 4 **マラリア**: 50歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**: 80歳代で、感染経路等不明です。
- 6 **カルバパネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 40歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 7 **急性脳炎**: 10歳代未満で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。病原体は不明です。
- 8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 60歳代で、血清群A群が1件、B群が1件です。飛沫・飛沫核感染または経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 30歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件ありました。
- 10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明4件)で、膿瘍由来と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 12 **水痘(入院例に限る)**: 30歳代(ワクチン接種歴2回)で、接触感染と推定されています。
- 13 **梅毒**: 10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者8件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間10件、同性間4件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

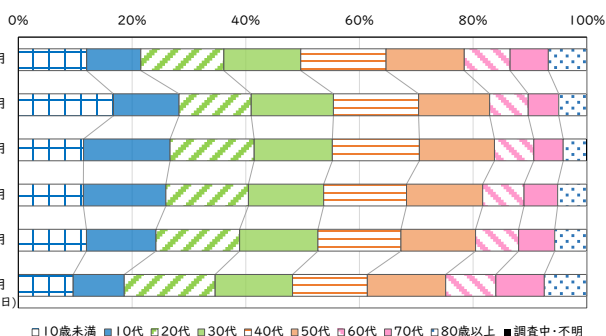
2022年第51週～2023年第3週に横浜市から報道発表がありました症例は74,974件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)



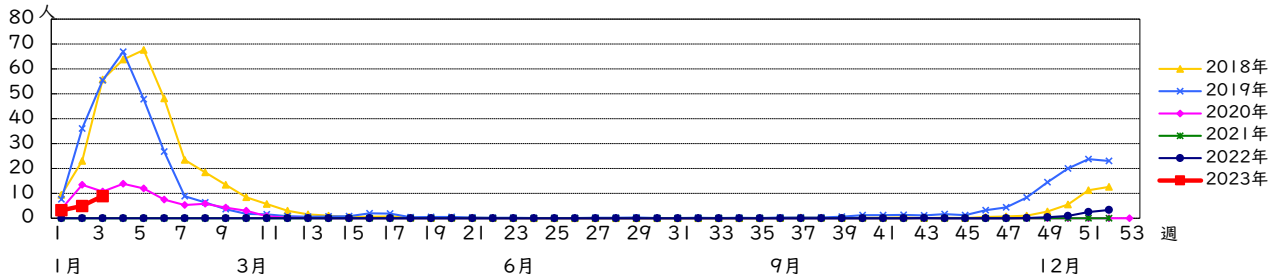
2 年齢層別患者割合

報告週対応表	
第51週	12月19日～12月25日
第52週	12月26日～1月1日
第1週	1月2日～1月8日
第2週	1月9日～1月15日
第3週	1月16日～1月22日

◇ 定点把握の対象

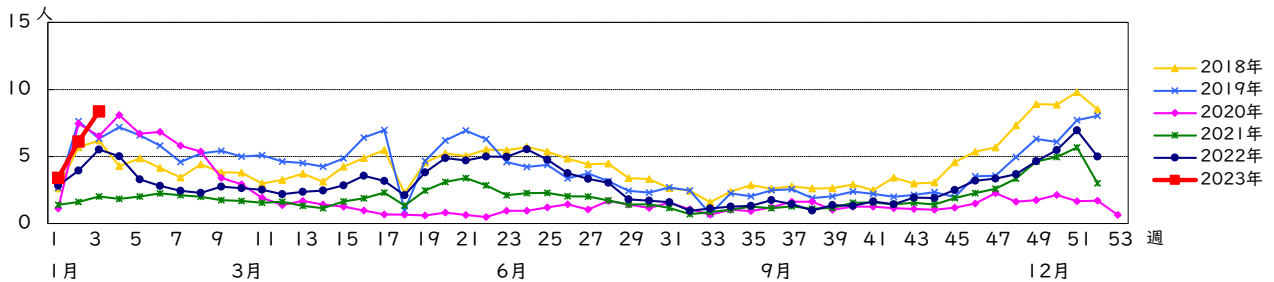
1 インフルエンザ:

第46週以降増加しており、第51週2.55、第52週3.37、2023年第1週3.23、第2週4.95、第3週8.89です。第51週に流行開始の目安となる1.00を上回り、インフルエンザ流行期に入りました。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報4号をご覧ください)



2 感染性胃腸炎:

第45週以降増加に転じ、第51週6.94、第52週5.00、2023年第1週3.40、第2週6.12、第3週8.36です。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:16件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:1件	淋菌感染症	男性:17件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和5年2月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザが増加し、流行注意報が発令されました。A型が多く検出されています。
- 梅毒は20歳代～30歳代の若い世代を中心に、幅広い年齢層で発生しています。妊婦の報告もみられます。
- 感染性胃腸炎の報告が多く、集団感染などもみられます。
- 新型コロナウイルス感染症は減少傾向が続いていますが、引き続き今後の動向に注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

<2月期に報告された全数把握疾患>

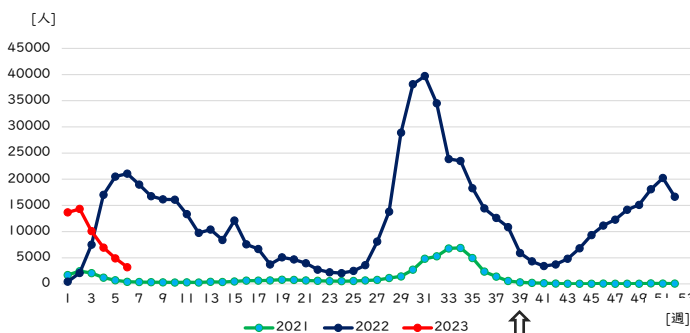
腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	18件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代～20歳代で、血清群O26が1件、O157が1件です。経口感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件ありました。
- E型肝炎**: 30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- レジオネラ症**: 60歳代～90歳代で、塵埃感染と推定される報告が2件、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- アメーバ赤痢**: 60歳代で、経口感染と推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 20歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 80歳代で、血清群A群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 20歳代～60歳代で、性的接触(異性間1件、同性間1件)と推定される報告が2件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**: 50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 梅毒**: 10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晚期顕症梅毒2件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間12件、同性間2件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 百日咳**: 40歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

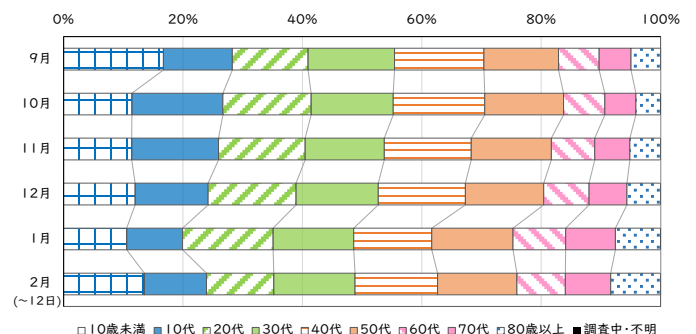
2023年第4週～第6週に横浜市から報道発表がありました症例は15,053件でした。

◆ 横浜市新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)



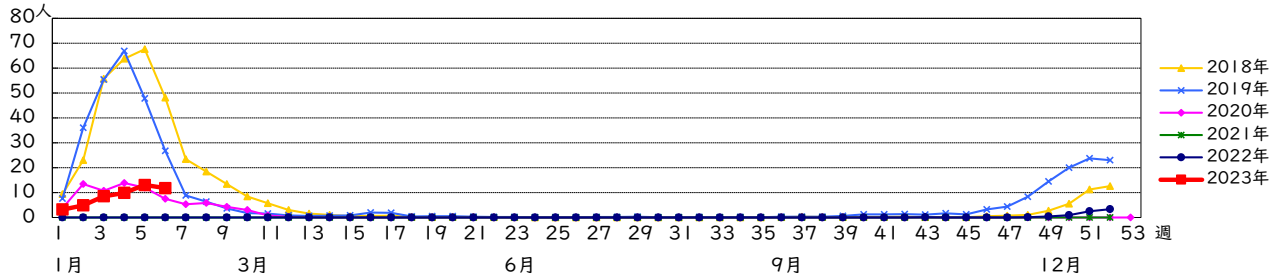
2 年齢層別患者割合

報告週対応表	
第4週	1月23日～1月29日
第5週	1月30日～2月5日
第6週	2月6日～2月12日

◇ 定点把握の対象

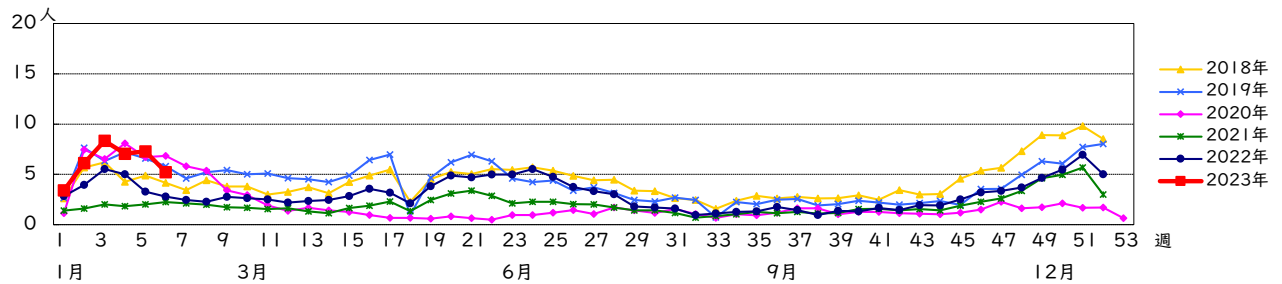
1 インフルエンザ:

2022年第46週以降増加しており、第51週に流行開始の目安となる1.00を上回り、インフルエンザ流行期に入りました。2023年第5週には13.07となり、流行注意報が発令されています。第6週は11.81です。第6週までの市内迅速キットの結果は、累計でA型99.4%、B型0.5%、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報7号をご覧ください)



2 感染性胃腸炎:

2022年第39週以降増加に転じ、2023年第4週7.06、第5週7.29、第6週5.22と推移しています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:4件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和5年3月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 梅毒は若い世代を中心に、幅広い年齢層で発生しています。
- インフルエンザは流行注意報が解除されました。A型が多く検出されています。
- 新型コロナウイルス感染症は減少～横ばいの傾向が続いています。引き続き今後の動向に注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

<3月期に報告された全数把握疾患>

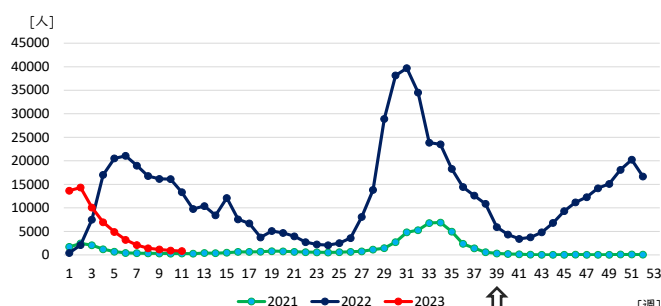
腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	7件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	19件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	百日咳	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:10歳代~50歳代で、血清群O157が2件、O26が1件、不明が1件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 2 E型肝炎:いずれも50歳代で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症:60歳代~90歳代で、いずれも感染経路等は不明です。
- 4 アメーバ赤痢:40歳代~60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:10歳代~80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 クロイツフェルト・ヤコブ病:70歳代で、孤発例です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:70歳代~80歳代で、いずれも血清群A群です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):20歳代で、感染経路等不明です。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症:60歳代~90歳代(ワクチン接種歴2回1件、無1件、不明3件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 10 水痘(入院例に限る):40歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 11 梅毒:20歳代~60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、無症状病原体保有者1件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間14件、異性・同性間1件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 12 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:80歳代で、感染経路等不明です。
- 13 百日咳:20歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

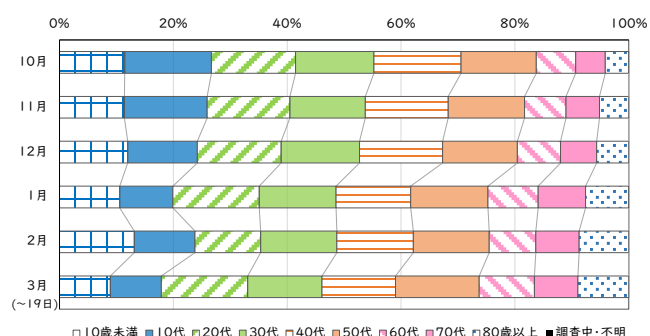
2023年第7週~第11週に横浜市から報道発表がありました症例は6,414件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)



2 年齢層別患者割合

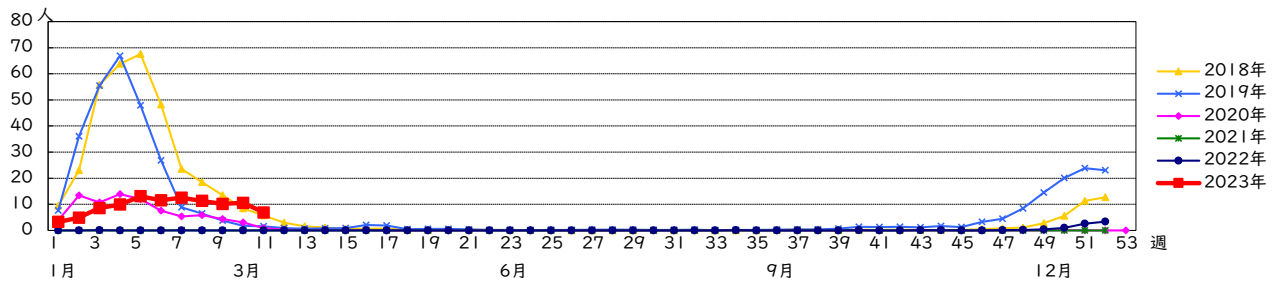
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第7週	2月13日～2月19日
第8週	2月20日～2月26日
第9週	2月27日～3月5日
第10週	3月6日～3月12日
第11週	3月13日～3月19日

1 インフルエンザ:

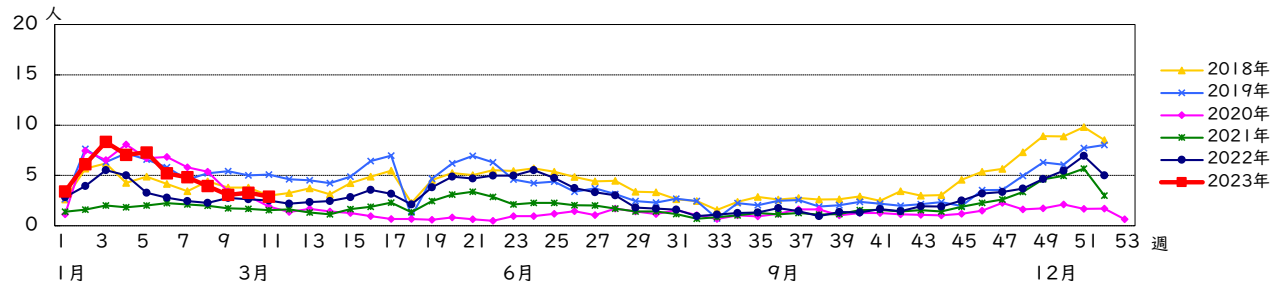
2022年第46週以降増加し、第51週にインフルエンザ流行期に入りました。2023年第5週に13.07で流行注意報が発令され、以降横ばいで推移しましたが、第11週に6.87となり、流行注意報は解除となりました。第11週までの市内迅速キットの結果は、累計でA型99.2%、B型0.7%、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。

(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報12号をご覧ください)



2 感染性胃腸炎:

2023年第3週に8.33でピークに達し、以降減少が続いています。第7週4.83、第8週3.94、第9週3.07、第10週3.29、第11週2.90と推移しています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:31件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:6件	淋菌感染症	男性:15件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和5年4月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 梅毒が多く発生しています。20～30歳代の若い世代を中心に、幅広い年齢層で患者がみられます。
- インフルエンザの流行注意報は解除されました。A型が多く検出されています。
- 新型コロナウイルス感染症は緩やかな増加傾向です。引き続き今後の動向に注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

<4月期に報告された全数把握疾患>

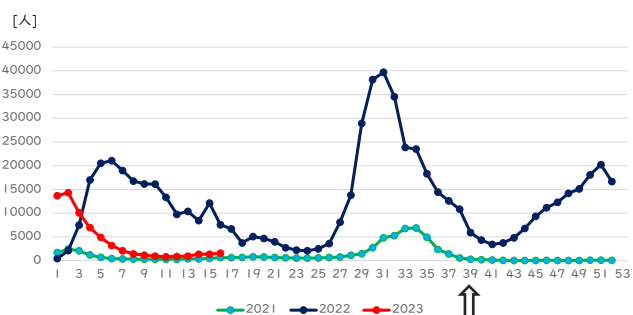
腸管出血性大腸菌感染症	5件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	3件	水痘(入院例に限る)	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	梅毒	27件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳未満～20歳代で、血清群O26が3件、O152が1件、O不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**: 40歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 3 **デング熱**: 40歳代で、蚊からの感染が疑われています。
- 4 **レジオネラ症**: 40歳代～90歳代で、いずれも感染経路等は不明です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 50歳代～80歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 50歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 50歳代～80歳代で、血清群G群が2名、B群が1名です。創傷感染と推定される報告が2件、接触感染または創傷感染と推定される報告が1件ありました。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 20歳代～60歳代で、いずれも性的接触(同性間)と推定されています。
- 9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: いずれも60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 11 **水痘(入院例に限る)**: 20歳代～70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明5件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が5件です。
- 12 **梅毒**: 10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者9件です。性的接触による感染と推定される報告が26件(異性間22件、同性間3件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

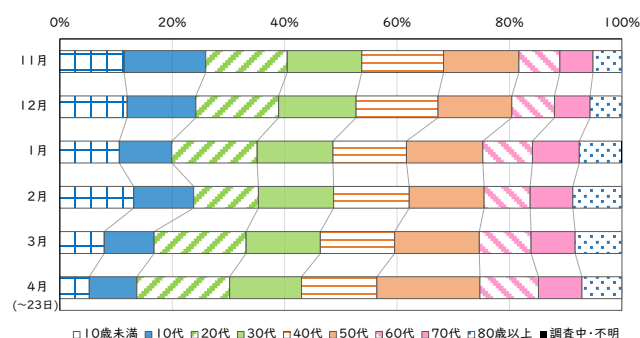
2023年第12週～第16週に横浜市から報道発表がありました症例は6,118件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)



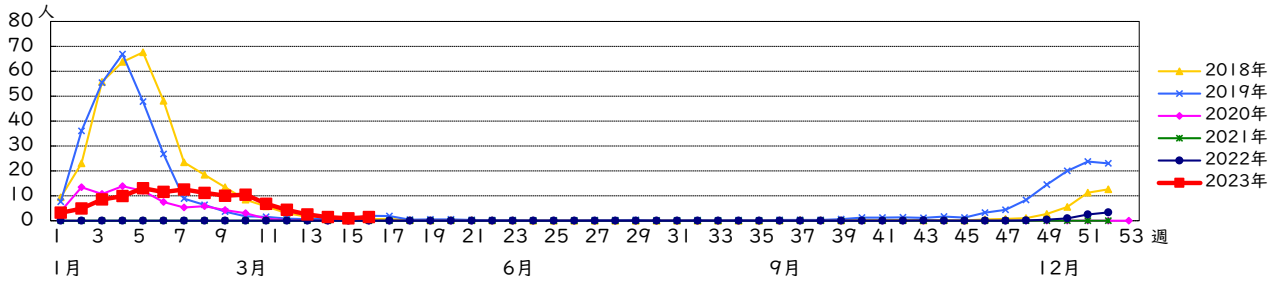
2 年齢層別患者割合

報告週対応表	
第12週	3月20日～3月26日
第13週	3月27日～4月2日
第14週	4月3日～4月9日
第15週	4月10日～4月16日
第16週	4月17日～4月23日

◇ 定点把握の対象

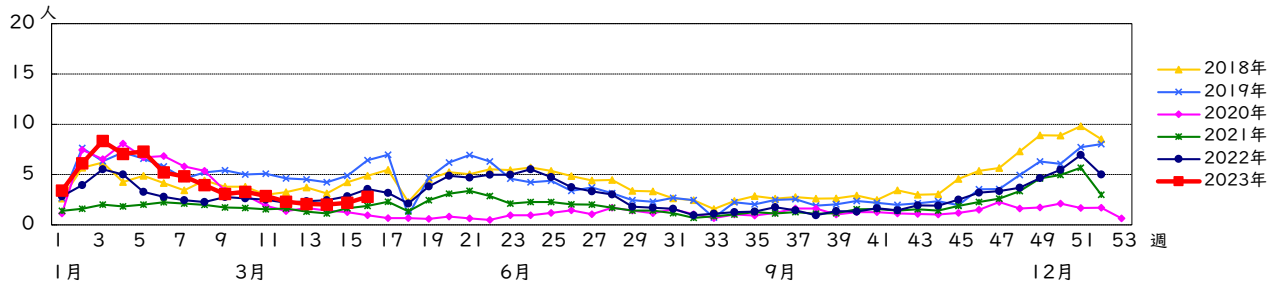
1 インフルエンザ:

2022年第46週以降増加し、第51週に流行開始の目安となる1.00を上回り、インフルエンザ流行期に入りました。2023年第5週(13.07)に流行注意報が発令され、第11週(6.87)に流行注意報が解除されました。第16週は1.48です。また、第16週までの市内学級閉鎖等は合計295件、患者数は3,487名です。今シーズンの市内迅速診断キットの累計結果は、A型98.9%、B型0.9%と、A・B型ともに陽性0.2%と、A型が多く検出されています。



2 感染性胃腸炎:

2023年第3週に8.33でピークに達しました。以降減少が続いていますが、第14週2.02、第15週2.19、第16週2.80と、微増しています。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:32件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:3件	淋菌感染症	男性:13件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoy/eiken/>

令和5年5月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 梅毒は幅広い年齢層で患者が多く発生しています。
- 感染性胃腸炎が増加傾向です。
- 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの発生状況に関しては、今後も注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

<5月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	6件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
アメーバ赤痢	2件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	2件	梅毒	22件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	播種性クリプトコックス症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件	百日咳	1件

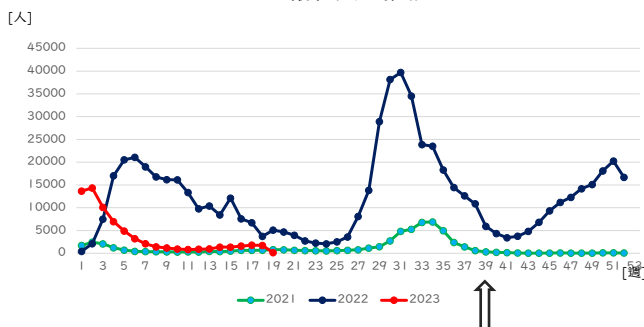
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満~40歳代で、血清群O157が3件、O26が2件、O103が1件です。経口感染と推定される報告が2件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 2 **E型肝炎**:50歳代~60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 **レジオネラ症**:50歳代~80歳代で、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等は不明の報告が2件ありました。
- 4 **アメーバ赤痢**:30歳代~40歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **急性脳炎**:60歳代~70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:90歳代で、血清群A群です。創傷感染と推定されています。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代~40歳代で、性的接触(同性間2件、詳細不明1件)と推定される報告が3件ありました。
- 8 **ジアルジア症**:40歳代で、経口感染と推定されています。
- 9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満~80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満~70歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 11 **水痘(入院例に限る)**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 12 **梅毒**:20歳代~60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間16件、同性間4件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 13 **播種性クリプトコックス症**:70歳代で、感染経路等不明です。
- 14 **百日咳**:10歳未満(ワクチン接種歴4回)で、感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース) <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/> (5月8日発表分まで)

2023年第17週~第19週(5月8日発表分のみ)に横浜市から報道発表がありました症例は3,632件でした。

2023年5月8日以降は定点報告となり、19週 2.11、20週 3.06です。

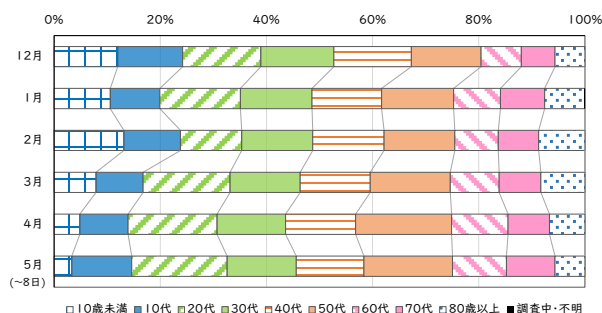
1 報告数の推移



※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)

※ 全数把握は、2023年5月7日までですが、5月8日発表分となっています。

2 年齢層別患者割合

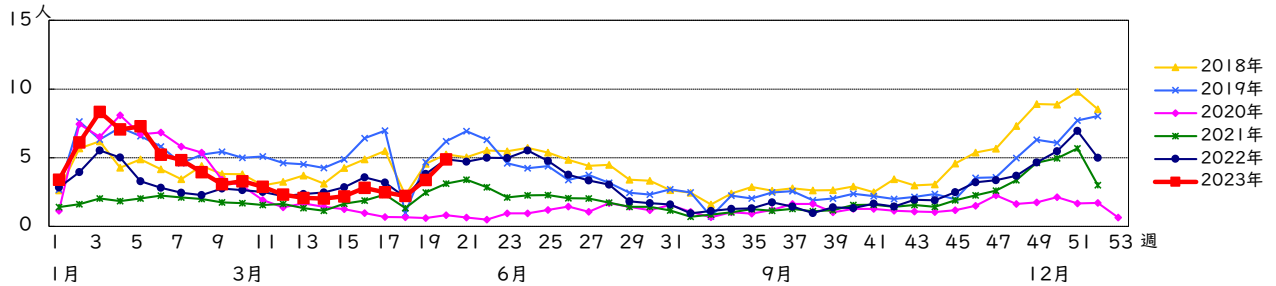


報告週対応表	
第17週	4月24日～4月30日
第18週	5月1日～5月7日
第19週	5月8日～5月14日
第20週	5月15日～5月21日

◇ 定点把握の対象

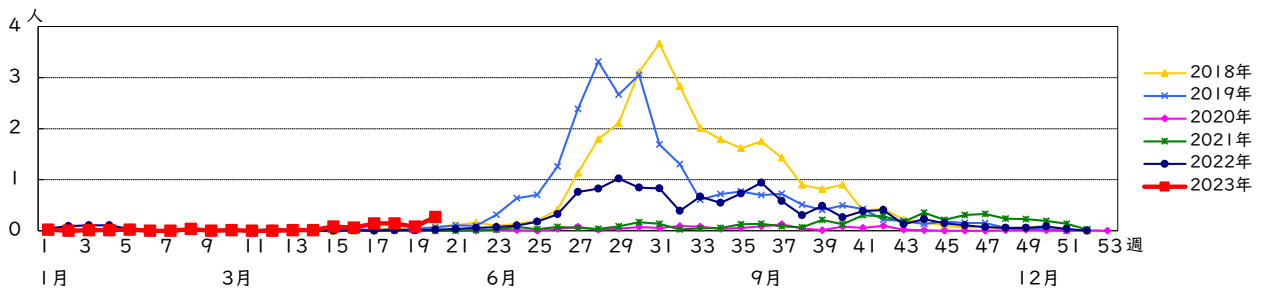
1 感染性胃腸炎:

2023年第3週のピーク(8.33)以降、減少が続いていましたが、第17週2.48、第18週2.22、第19週3.38、第20週4.88と増加しています。



2 ヘルパンギーナ:

2023年第13週0.01から僅かに増加しはじめ、第17週0.14、第18週0.14、第19週0.08、第20週0.27と推移しています。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:1件	淋菌感染症	男性:12件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.25	1.25	0.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/>

令和5年6月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症も増加しており、注意が必要です。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、集団感染も含め、患者数が増加しています。
- 新型コロナウイルス感染症は幅広い年齢層で患者が発生しています。
- ヘルパンギーナなど、子どもの感染症の報告が多くなっています。

◇ 全数把握の対象

<6月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	51件	急性脳炎	1件
パラチフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	2件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	37件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清群O157が42件、O26が2件、O111が2件、Og5が1件、O103が1件、Og156が1件、O166が1件、O血清群不明が1件です。接触感染と推定される報告が35件、経口感染と推定される報告が6件、経口または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が9件ありました。市内認定こども園での集団感染事例(二次感染含む)が38件含まれています。(令和5年5月30日記者発表)
- 2 **パラチフス**:30歳代で、経口感染(国外)と推定される報告が1件です。
- 3 **E型肝炎**:20歳代～40歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 4 **レジオネラ症**:30歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 5 **アメーバ赤痢**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 6 **ウイルス性肝炎**:30歳代で、感染経路等不明です。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 8 **急性脳炎**:90歳代で、感染経路等不明です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:60歳代～90歳代で、いずれも血清群はG群、創傷感染と推定されています。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代～60歳代で、性的接触(同性間・異性間1件、詳細不明1件)と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満(ワクチン接種歴4回1件、3回1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 12 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回3件、3回2件、2回1件、1回1件、無2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 13 **水痘(入院例に限る)**:60～70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 14 **梅毒**:20歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期20件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が33件(異性間26件、同性間3件、詳細不明4件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/>

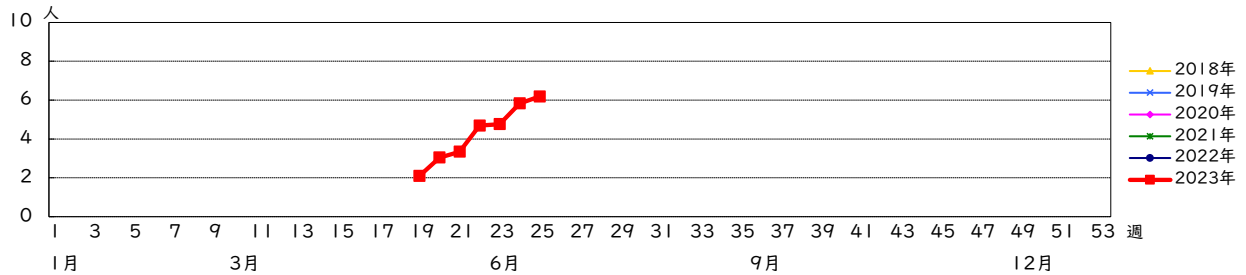
報告週対応表	
第21週	5月22日～5月28日
第22週	5月29日～6月4日
第23週	6月5日～6月11日
第24週	6月12日～6月18日
第25週	6月19日～6月25日

◇ 定点把握の対象

1 新型コロナウイルス感染症：

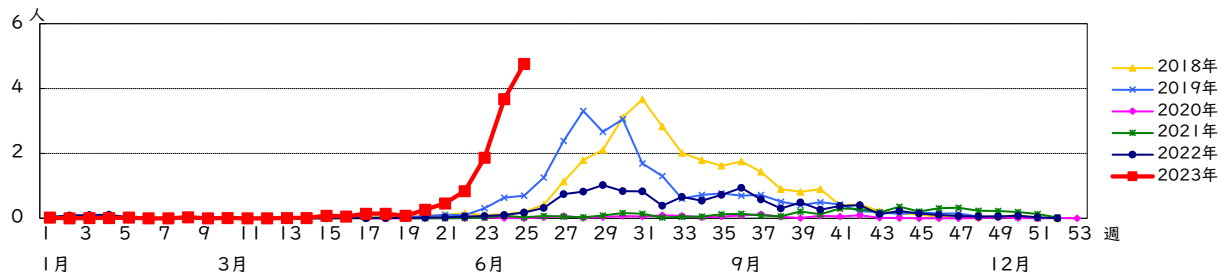
2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。

第19週は2.10で、以降増加が続き、第23週4.76、第24週5.83、第25週6.19と推移しています。



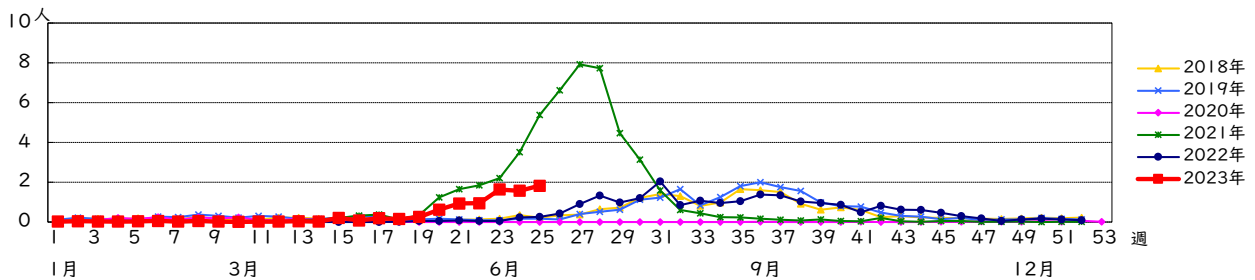
2 ヘルパンギーナ：

2023年第20週(0.27)以降増加しはじめ、第21週0.46、第22週0.84、第23週1.87、第24週3.67、第25週4.76と急増しています。



3 RSウイルス：

2023年第19週(0.26)以降増加しはじめ、第20週0.62、第21週0.93、第22週0.94、第23週1.64、第24週1.57、第25週1.82と推移しています。



4 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:40件	女性:24件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:15件
尖圭コンジローマ	男性:11件	女性:2件	淋菌感染症	男性:19件	女性:6件

5 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和5年7月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は5類化以降、増加が続いています。基本的な感染対策の継続が必要です。
- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症にも注意が必要です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状況が続いています。

◇ 全数把握の対象

<7月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	23件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	3件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	22件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	風しん	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清群O157が13件、O26が4件、Og82が1件、O91が1件、O103が1件、O145が1件、O血清群不明が2件です。経口感染と推定される報告が8件、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が13件ありました。
- 2 **E型肝炎**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **マラリア**:40歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症(肺炎型)**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳代～80歳代で、血清群はG群が2件、A群が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代で、性的接触(同性間)と推定されています。
- 8 **ジアルジア症**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、無1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 11 **水痘(入院例に限る)**:30歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 12 **梅毒**:20歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期12件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者3件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間15件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 13 **風しん**:30歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

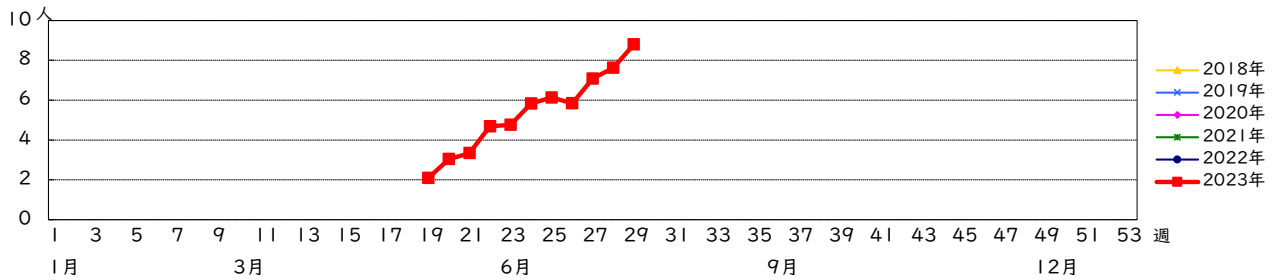
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

報告週対応表	
第26週	6月26日～7月2日
第27週	7月3日～7月9日
第28週	7月10日～7月16日
第29週	7月17日～7月23日

◇ 定点把握の対象

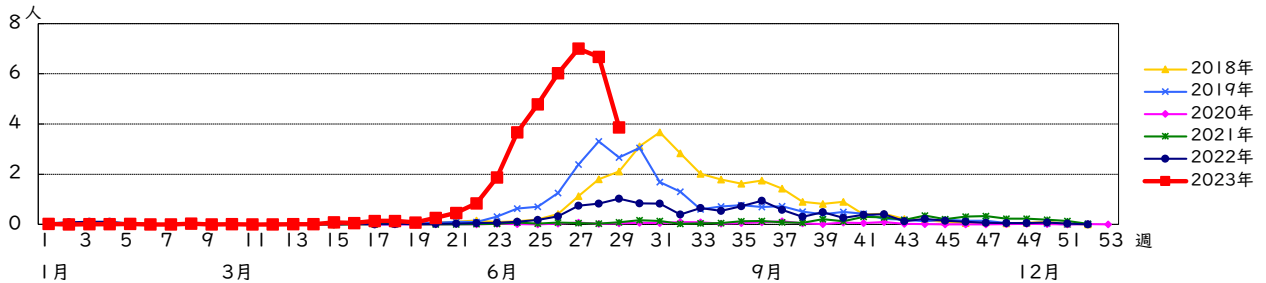
1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第26週5.84、第27週7.09、第28週7.63、第29週8.80と推移しています。



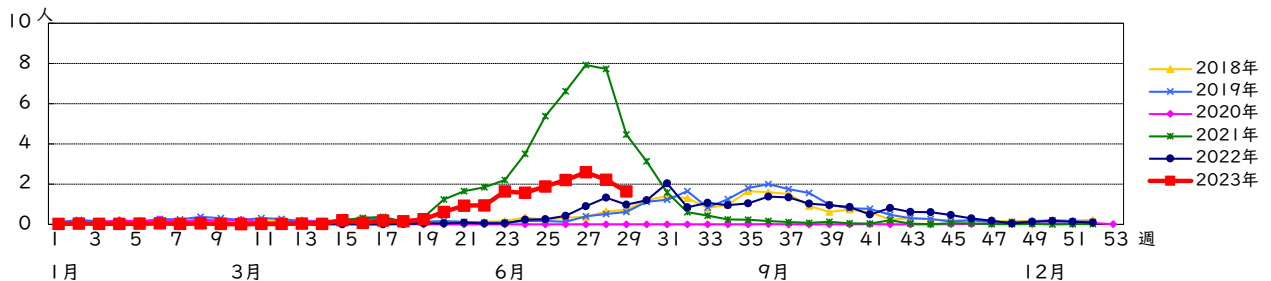
2 ヘルパンギーナ:

2023年第20週(0.27)以降増加しはじめ、第26週6.02で流行警報発令基準6.00を上回りました。第27週7.00でピークを迎え、第28週6.67、第29週3.87と推移しています。



3 RSウイルス感染症:

2023年第19週(0.26)以降増加しはじめ、第26週2.20、第27週2.59、第28週2.22、第29週1.64と推移しています。



4 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:29件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:6件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

令和5年8月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症にも注意が必要です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。食品の加熱処理や、食事の前などには手を洗いましょう。
- 新型コロナウイルス感染症は幅広い年齢層で患者が増加しています。基本的な感染対策を心がけましょう。

◇ 全数把握の対象

<8月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	25件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
E型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	水痘(入院例に限る)	2件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	梅毒	32件
急性脳炎	1件	百日咳	2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件		

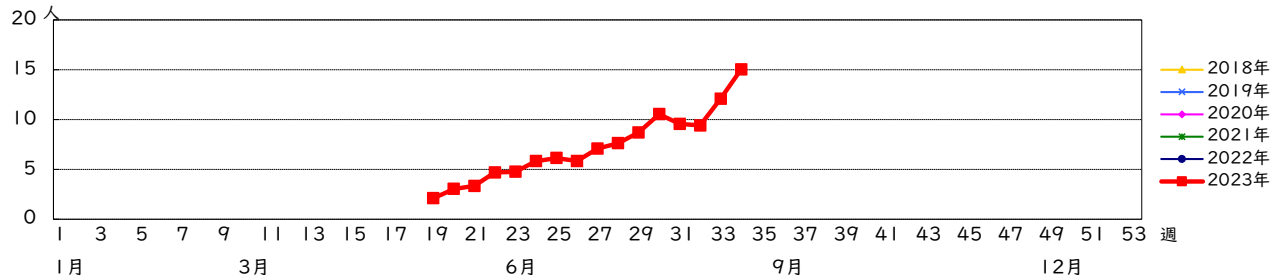
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、血清群O157が21件、O103が2件、O74が1件、O168が1件です。経口感染と推定される報告が9件、接触感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が12件ありました。
- 2 **E型肝炎**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **アメーバ赤痢**:40歳代～50歳代で、性的接触と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 4 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **急性脳炎**:60歳代で、病原体不明、感染経路等不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満～80歳代で、血清群はA群が3件、G群が2件、不明が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:50歳代で、性的接触(異性間1件、詳細不明2件)と推定されています。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳未満～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明3件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～50歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:70歳代～80歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 11 **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期16件、早期顕症梅毒Ⅱ期8件、無症状病原体保有者8件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間21件、同性間1件、詳細不明5件)、感染経路等不明の報告が5件ありました。
- 12 **百日咳**:10歳未満(ワクチン接種歴4回2件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 13 **薬剤性アシネトバクター感染症**:80歳代で、医療器具関連と推定されています。

報告週対応表	
第30週	7月24日～7月30日
第31週	7月31日～8月6日
第32週	8月7日～8月13日
第33週	8月14日～8月20日
第34週	8月21日～8月27日

◇ 定点把握の対象

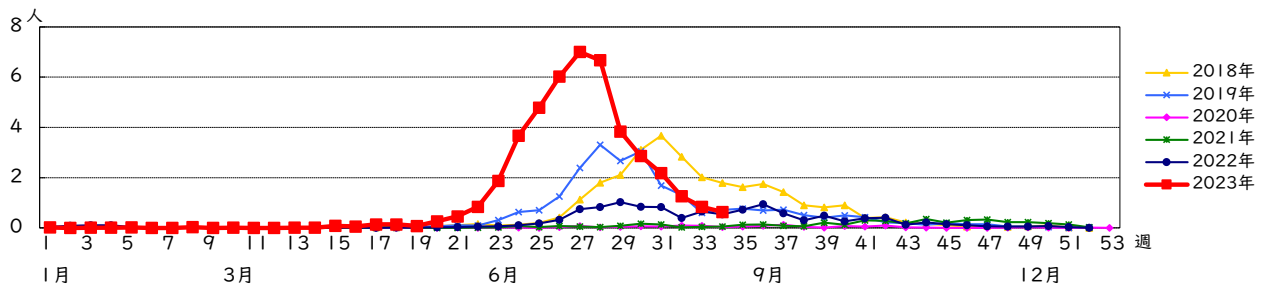
1 新型コロナウイルス感染症：

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第30週10.53、第31週9.56、第32週9.40、第33週12.08、第34週15.04と推移しています。



2 ヘルパンギーナ：

2023年第20週(0.27)以降増加しはじめ、第26週6.02で流行警報発令基準6.00を上回りました。第27週7.00でピークを迎え、第32週(1.26)に終息基準2.00を下回りました。第33週0.84、第34週0.64と推移しています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:22件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:14件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:6件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和5年9月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。食品は加熱処理し、食事の前などにはしっかり手を洗いましょう。
- 新型コロナウイルス感染症は幅広い年齢層で患者が発生しており、今後も注意が必要です。
- インフルエンザは、例年の同時期と比較して患者が多くなっています。
- 20歳代～50歳代を中心として梅毒が多く発生しており、注意が必要です。妊婦の報告もみられます。

◇ 全数把握の対象

<9月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	29件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
デング熱	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	17件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、血清群O157が17件、O103が4件、O111が2件、O26が1件、O148が1件、O血清不明が4件です。経口感染と推定される報告が6件、接触感染と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が17件ありました。
- 2 **デング熱**:20歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 3 **レジオネラ症**:80歳代～90歳代で、水系感染と推定される報告が2件、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 4 **アメーバ赤痢**:いずれも50歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代および80歳代で、いずれも古典的CJDです。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代および70歳代で、血清群はA群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、性的接触(同性間)での感染と推定されています。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:60歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 10 **梅毒**:20歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が15件(異性間12件、同性間1件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

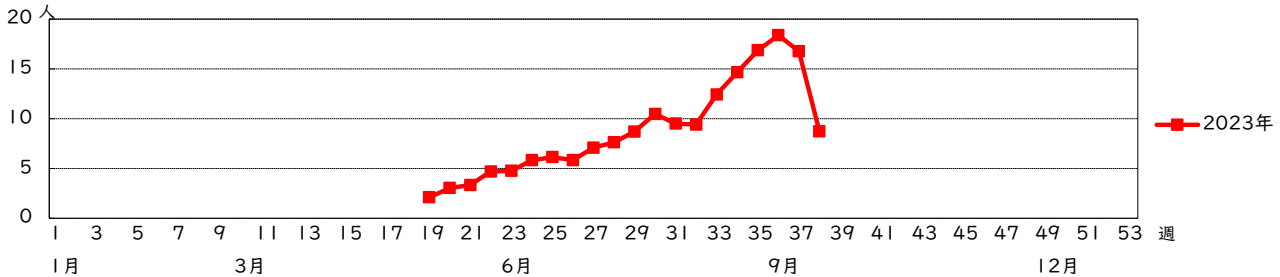
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
第35週	8月28日～9月3日
第36週	9月4日～9月10日
第37週	9月11日～9月17日
第38週	9月18日～9月24日

◇ 定点把握の対象

1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第35週16.86、第36週18.38、第37週16.78、第38週8.73と推移しています。

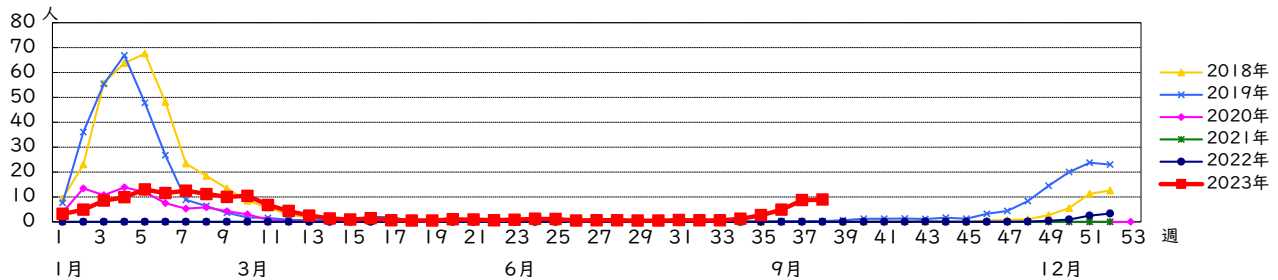


2 インフルエンザ:

2023年9月4日(第36週)より2023/2024シーズンに入りました。

第35週2.70、第36週4.91、第37週8.76、第38週8.97と増加しています。

第38週の市内迅速診断キットの結果は、A型760件、B型1件、A・B型ともに陽性2件と、A型が多く検出されています。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報3号をご参照ください)



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:12件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:11件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和5年10月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザは流行注意報が発令されています。手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。
- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症も増加しており、注意が必要です。
- 咽頭結膜熱の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象

<10月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	14件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件	梅毒	25件
急性脳炎	1件		

- 腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～50歳代で、血清群O157が8件、O26が2件、Og110が1件、O142が1件、O血清不明が2件です。経口感染と推定される報告が4件、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- E型肝炎**:60歳代で、感染経路等不明です。
- デング熱**:60歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- マラリア(熱帯熱)**:30歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
- レジオネラ症**:70歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性脳炎**:10歳未満で、感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:60歳代および70歳代で、いずれも血清群はA群で、感染経路は創傷感染と推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～40歳代で、性的接触(同性間)での感染と推定される報告が3件、輸血・血液製剤(海外)と推定される報告が1件です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**:90歳代(ワクチン接種歴無不明)で、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴3回1件、1回1件、無1件、不明2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴無)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 梅毒**:10歳代～90歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期8件、無症状病原体保有者11件です。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間20件、同性間1件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

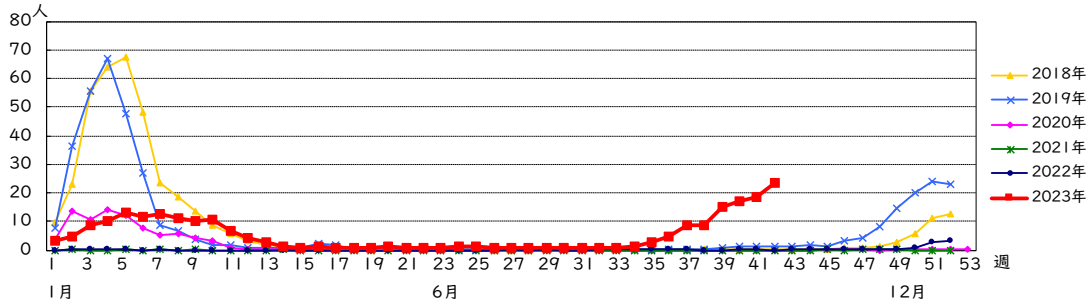
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoo/eiken/>

報告週対応表	
第39週	9月25日～10月1日
第40週	10月2日～10月8日
第41週	10月9日～10月15日
第42週	10月16日～10月22日

◇ 定点把握の対象

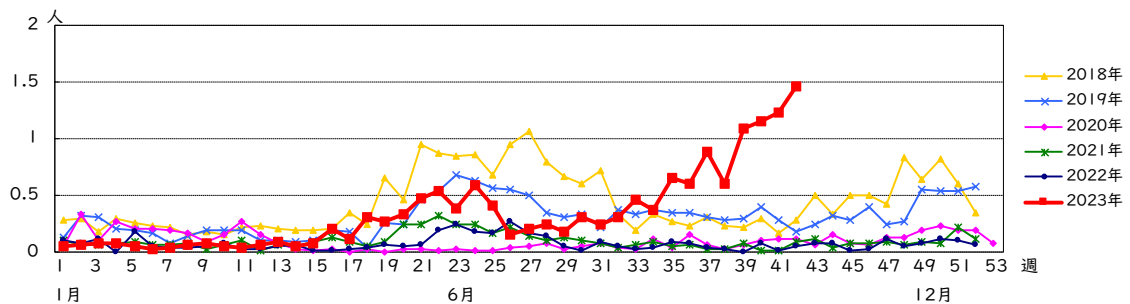
1 インフルエンザ:

第34週以降増加が続き、第39週14.86で流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第42週は23.63です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報7号をご参照ください。



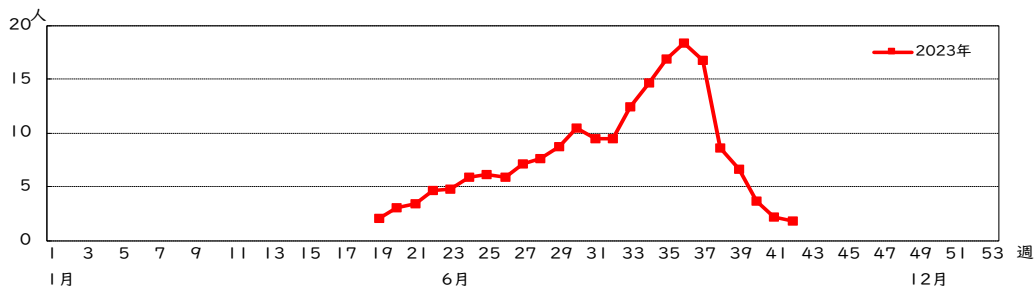
2 咽頭結膜熱:

第30週以降増加傾向が続き、第39週1.08、第40週1.14、第41週1.23、第42週1.46と推移しています。



3 新型コロナウイルス感染症:

2023年第19週より定点報告となりました。第36週18.38をピークに、第42週は1.81に減少しています。



4 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:47件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:16件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:7件	淋菌感染症	男性:16件	女性:4件

5 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和5年11月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年の同時期と比較しかなり多く発生しています。
- インフルエンザは流行注意報が発令されています。手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

<11月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	11件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	10件	水痘(入院例に限る)	2件
ウイルス性肝炎	2件	梅毒	18件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、血清群O157が7件、O103、O115、O126が各1件、O血清不明が1件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が10件ありました。
- 2 **E型肝炎**:70歳代で、経口感染と推定されています。
- 3 **デング熱**:20歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症**:30歳代～90歳代で、水系感染と推測される報告が3件、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が6件ありました。
- 5 **ウイルス性肝炎**:いずれも20歳代で、B型が1件、EBVが1件です。いずれも性的接触による感染と推定されています。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代及び90歳代で、血清群はB群が1件、C群が1件、いずれも感染経路等不明です。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代及び40歳代で、性的接触(異性間1件、同性間1件)による感染と推定される報告が2件ありました。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:30歳代及び70歳代(ワクチン接種歴1回1件、無1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:20歳代及び70歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、いずれも飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 11 **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者4件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間17件、詳細不明1件)ありました。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

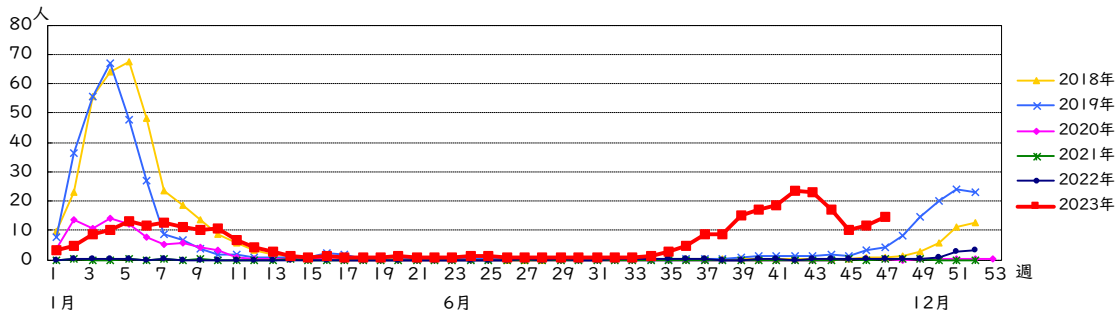
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第43週	10月23日～10月29日
第44週	10月30日～11月5日
第45週	11月6日～11月12日
第46週	11月13日～11月19日
第47週	11月20日～11月26日

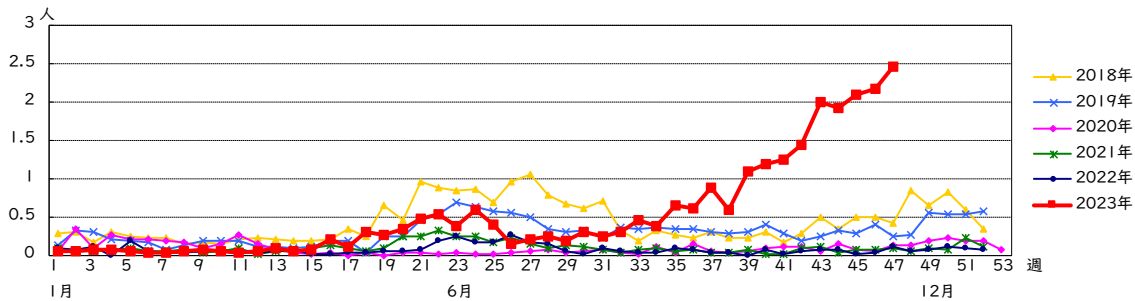
1 インフルエンザ:

第34週以降増加が続き、第39週14.86で流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第47週は14.53です。
 詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報11号をご参照ください。



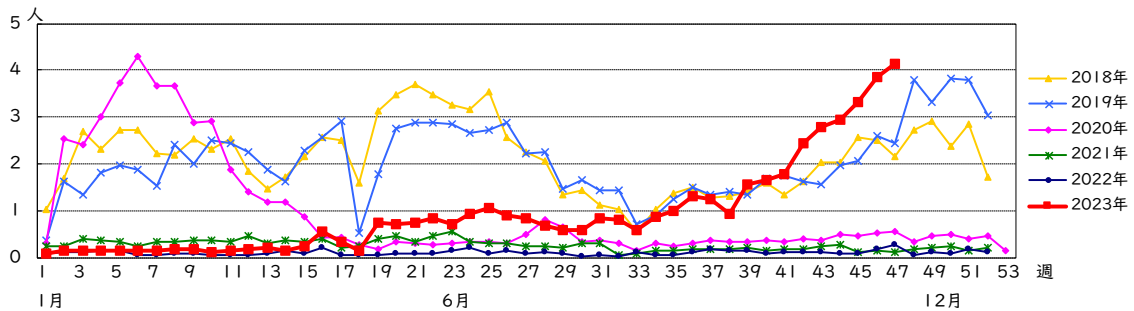
2 咽頭結膜熱:

第30週以降増加傾向が続き、第47週は2.46です。過去5年間の同時期と比較し、かなり多くなっています。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:

第39週以降増加傾向が続き、第47週は4.12です。過去5年間の同時期と比較し多くなっています。



4 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:4件	淋菌感染症	男性:22件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和5年12月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が多く発生し、集団感染の報告も増加しています。
- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年の同時期と比較しかなり多く発生しています。
- インフルエンザは流行注意報が発令されています。予防接種、手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。

◇ 全数把握の対象 <12月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	2件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件
腸チフス	1件	急性脳炎	1件
パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
つつが虫病	1件	水痘(入院例に限る)	3件
デング熱	1件	梅毒	18件
レジオネラ症	4件	播種性クリプトコックス症	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代~30歳代で、血清群O157が2件です。経口感染と推定される報告が1件、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 腸チフス**:20歳代で、感染経路等不明です。
- パラチフス**:20歳代で、感染経路等不明です。
- E型肝炎**:50歳代~60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- つつが虫病**:80歳代で、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件ありました。
- デング熱**:20歳代で、蚊からの感染(海外)と推定されています。
- レジオネラ症**:60歳代~80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代~80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性脳炎**:10歳未満で、病原体不明、感染経路等不明です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**:80歳代(ワクチン接種歴無)、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満~90歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:20歳代~80歳代(ワクチン接種歴1回1件、不明2件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 梅毒**:10歳代~70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期12件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晩期顕症梅毒1件です。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間13件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 播種性クリプトコックス症**:80歳代で、感染経路等不明です。

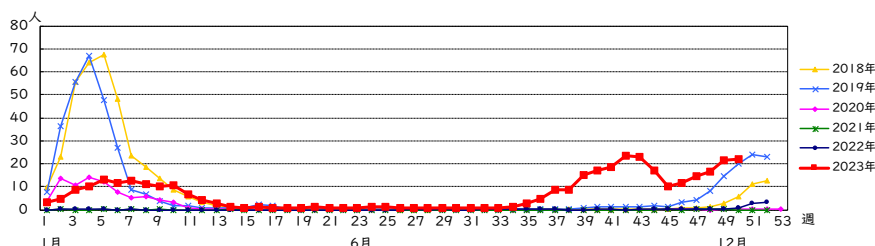
報告週対応表

第48週	11月27日~12月3日
第49週	12月4日~12月10日
第50週	12月11日~12月17日

◇ 定点把握の対象

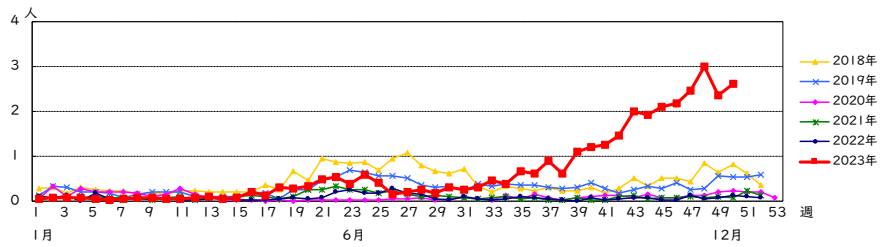
1 インフルエンザ

第34週以降増加が続き、第39週14.86で流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第50週は22.05です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報14号をご覧ください。



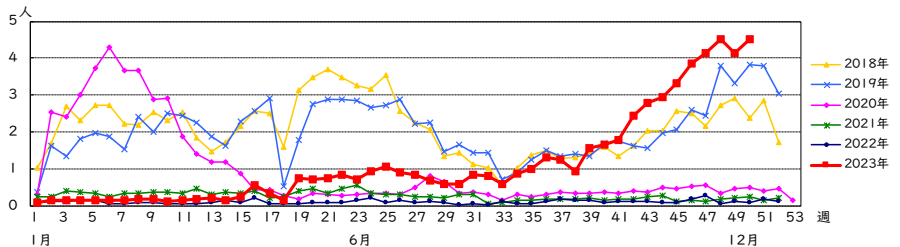
2 咽頭結膜熱

第39週以降増加が続き、第48週(3.00)に流行警報発令基準値(定点あたり3.00)となりました。第50週は2.60です。詳細は、咽頭結膜熱流行情報3号をご参照ください。



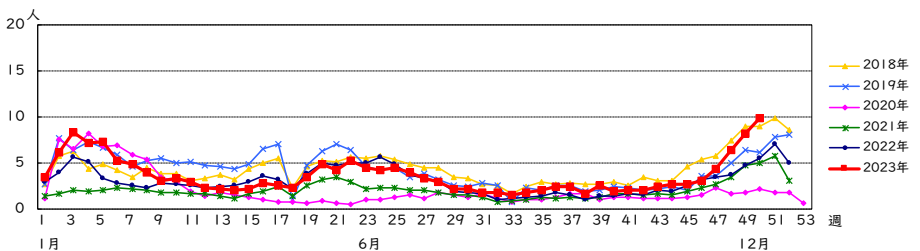
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第39週以降増加傾向が続き、第50週は4.50です。過去5年間の同時期と比較し多くなっています。



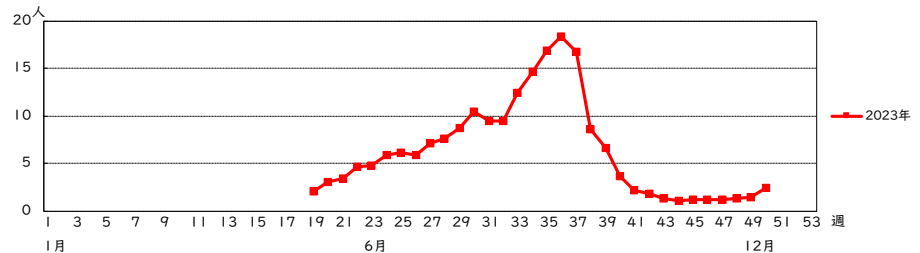
4 感染性胃腸炎

第41週以降増加傾向が続き、第47週以降の増加が顕著です。第50週は9.77です。



5 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。第36週18.38をピークに減少していましたが、第47週以降再び増加に転じています。第50週は2.42です。



6 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:27件	女性:24件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:18件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:3件	淋菌感染症	男性:17件	女性:4件

7 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	1.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

8 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

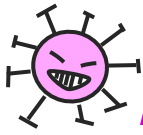
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

感染症に気をつけよう!!

2023年1月号



横浜市衛生研究所
感染症情報センター 1月26日発行

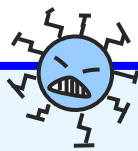


横浜市内の感染症流行状況

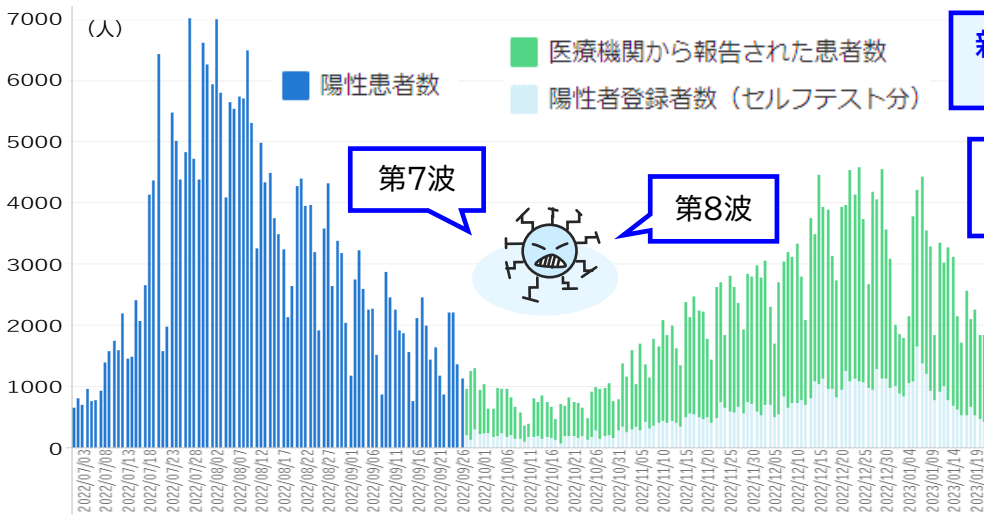
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	?	今後の感染状況について、全国的には減少傾向が続くことが見込まれています。*【'22.12号】
インフルエンザ**	流行	増加	患者の年齢構成は1月16日からの7日間で、10歳未満が全体の61.7%を占めていました。
梅毒**	発生	横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数が比較的多い状況が続いています。【ちらし】【無料・匿名検査】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症

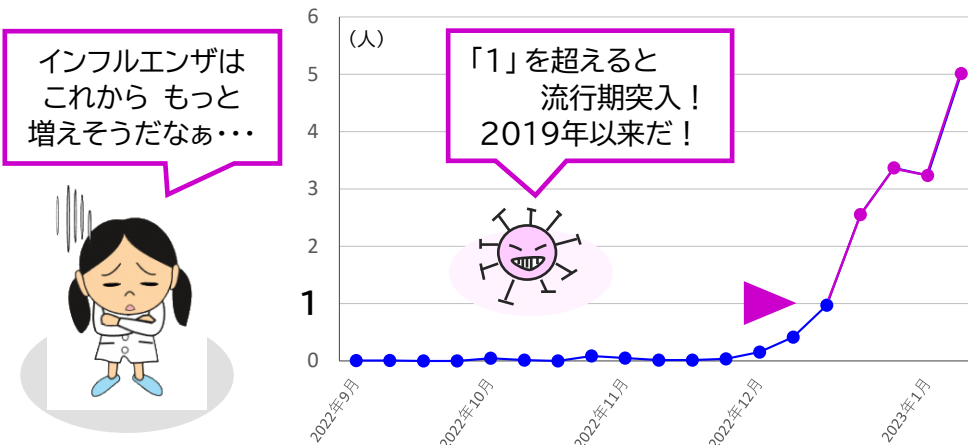
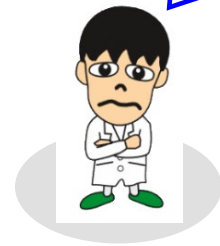


新型コロナウイルス感染症



新型コロナ 陽性患者数の推移
公表日別 2023年1月22日時点

このまま減っていくかなあ...
まだ 感染対策は続けないと



インフルエンザはこれからもっと増えそうだなあ...



季節性インフルエンザ
2023年1月15日までの
定点あたり患者報告数(注)

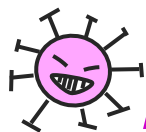
(注) 定期的に報告される患者発生状況のこと。横浜市内の医療機関153か所から、7日間ごとに報告される患者数の平均値。

参考リンク: 横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【新型コロナウイルスワクチン接種について】

感染症に気をつけよう!!

2023年2月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 2月17日発行



横浜市内の感染症流行状況

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	減少	今後の感染状況について、全国的には減少傾向が続くことが見込まれています。** 【'23.1号】
インフルエンザ**	注意報	横ばい	2月初めに、定点あたり患者報告数(7日間毎の平均)が10人(注意報レベル)を超えました。
感染性胃腸炎**	発生	横ばい	冬に多く、1月中旬にピークがありました。集団感染も報告されています。【'16.12号】【ちらし】
梅毒**	発生	横ばい	患者の年齢は20~30歳代の若い世代が中心です。妊婦の報告もみられます。【無料・匿名検査】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

感染予防のためには
原因になるウイルスのことを
よく知らなきゃ!

誰かにうつさないためにも
感染を広げてしまう可能性について**
調べてみよう!

季節性インフルエンザ

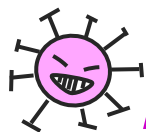
	ウイルスが排出される量など	人にうつすかもしれない期間
新型コロナ	症状が現れる直前と直後 特に、高くなる。	症状が現れる2日前から 症状が現れた後7~10日間程度。
季節性 インフルエンザ	熱が下がるとともに減少する。 熱が下がった後も排出されて 2日程度は人にうつす可能性あり。	症状が現れる前日から 症状が現れた後3~7日間程度。

参考リンク: 横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【新型コロナウイルスワクチン接種について】

感染症に気をつけよう!!

2023年3月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 3月10日発行



横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ**	注意報	横ばい	3月8日時点の集計でも、患者報告数は注意報レベルを超えた状況が続いています。
梅毒**	発生	横ばい	患者の年齢層は10代～60代と幅広く、中心は20代～30代の若い世代です。【無料・匿名検査】
感染性胃腸炎**	発生	やや減少	冬に多く、1月中旬にピークがありました。集団感染も報告されています。【'16.12号】【ちらし】
新型コロナウイルス感染症*	流行	横ばい	今後の感染状況について、全国的には横ばい傾向が続くことが見込まれています。**【'23.2号】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、復習しておきたい

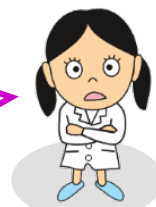


新型コロナウイルス感染症



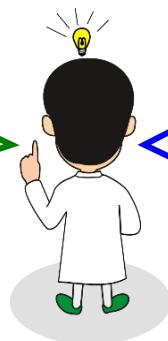
30代と比較した場合の
各年代の重症化率*

高齢者や
病気のある人、妊婦さんは
重症化しやすい**でしょ!



10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上
0.5倍	0.2倍	0.3倍	1倍	4倍	10倍	25倍	47倍	71倍	78倍

高齢になると
どのくらい重症化しやすいのかな?
30代を基準にして比べてみよう!



新型コロナの
感染力を軽く考えないで、
マスク* やワクチンのことも
確認しておこう!

新しい変異株* のことも
心配だよ!

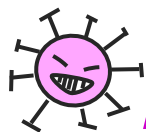
※「重症化率」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例(無症状を含む)のうち、集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療を行った症例または死亡した症例の割合。

参考リンク: 横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【新型コロナウイルスワクチン接種について】

感染症に気をつけよう!!

2023年4月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 4月10日発行



横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
梅毒**	発生	横ばい	患者の年齢層は20代～60代と幅広く、中心は若い世代です。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】
インフルエンザ**	流行	減少	3月中旬に注意報レベルを下回りましたが、まだ、流行は終息していません。【流行情報12号】
新型コロナウイルス感染症*	流行	横ばい	今後の感染状況では、感染者数が増加に向かう可能性もあるとされています。**【'23.3号】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、復習しておきたい 手洗いの効果

手や指に付着しているウイルスの数は
手洗いでどれくらい減らせるか**
調べてみよう!

接触感染※を防止するために
洗っていない手では
目や鼻、口を触らないように気をつける!

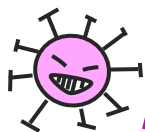
※ ドアノブや電車のつり革など、不特定多数の人が使う物に触ることで、自分の手にもウイルスが付着しているかも**しれません。
人は、無意識に顔を触って**います。そのときにウイルスが目や鼻などの粘膜から体内に入って、感染(接触感染)する可能性があります。

流水による15秒の手洗いで1/100に減るよ!
石けんやハンドソープで10秒もみ洗いした後に流水で15秒すすぐと
1/10,000にまで減らせるんだ!

感染症に気をつけよう!!

2023年5月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 5月10日発行



横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
梅毒**	発生	横ばい	20~30代を中心にして、報告数の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】
インフルエンザ**	散発	減少	4月下旬に流行開始レベルを下回りましたが、まだ、散発的に患者報告はみられます。
新型コロナウイルス感染症*	流行	やや増加	全国の今後の見通しでは、夏に向けて、一定程度の感染拡大を想定する必要があります。**

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、復習しておきたい 5類感染症

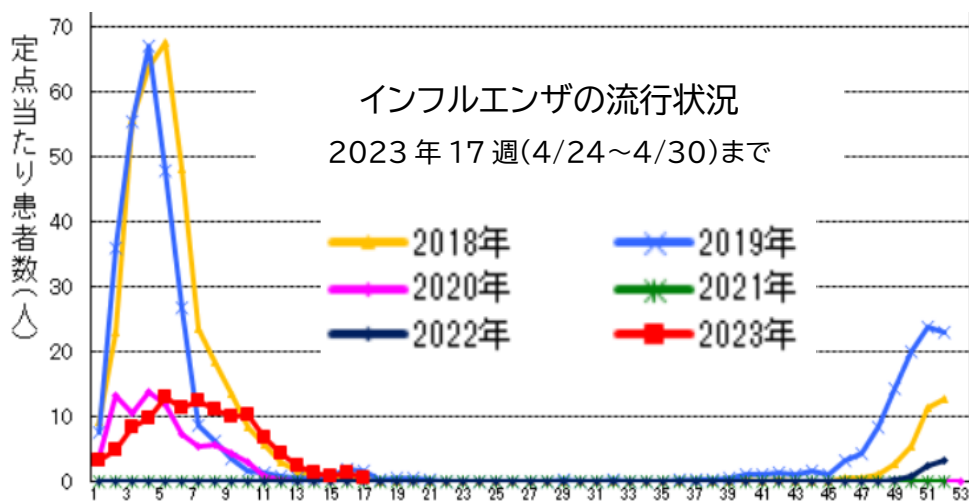
法律では**、病原体の感染力や感染した場合の病状の重さなどに応じて、感染症を1類~5類等に分類しているでしょ。インフルエンザや新型コロナなどの5類感染症は、流行状況をどのように把握しているの？



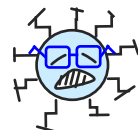
あらかじめ定められた定点医療機関(横浜市内では153か所)から、7日間ごとに報告される患者数の平均値(定点当たり患者数*)を用いるよ。



※ 例えばインフルエンザで「定点当たり患者数1.00」とは、定点医療機関で1週間に「平均1人のインフルエンザの患者が受診した」ということ。



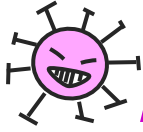
この方法で調査を続ければ、流行の開始に向けて予防対策に役立つね。



感染症に気をつけよう!!

2023年6月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 6月1日発行



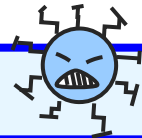
横浜市内の感染症流行状況



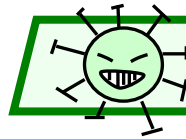
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
梅毒**	発生	横ばい	20~60代と幅広い年齢層で、報告の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】
感染性胃腸炎**	発生	増加	1月にピークがあり、その後、減少していましたが、5月上旬から増加の傾向です。【ちらし】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今後も、気をつけたい感染症



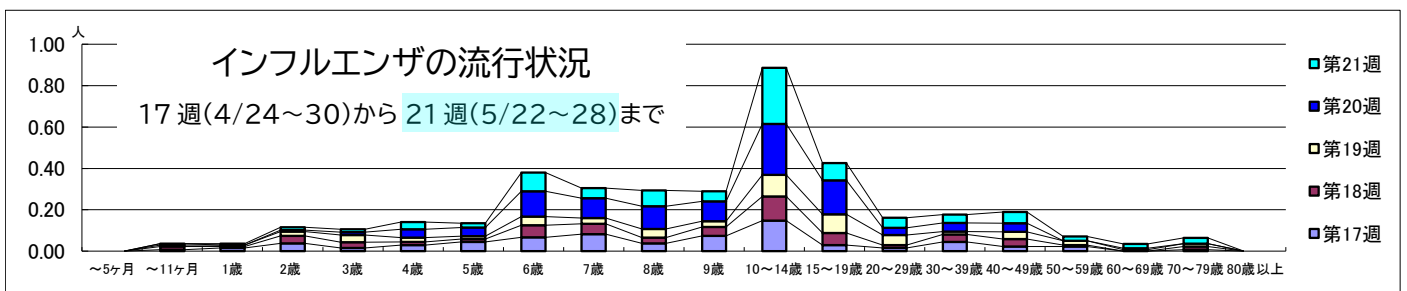
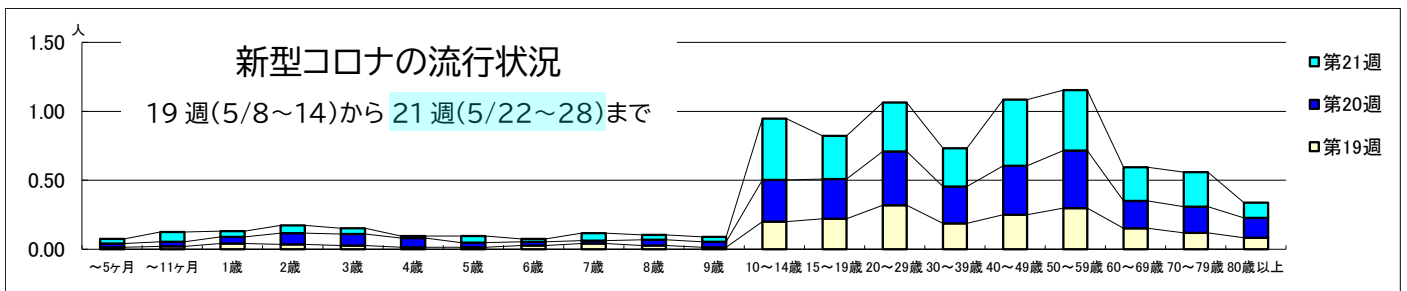
新型コロナウイルス感染症



季節性インフルエンザ



定点医療機関から、7日間ごとに報告される患者数の平均値
(定点当たり患者数)を、年齢層別にみてみよう。

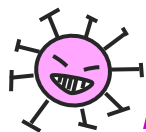


どちらの感染症も、多くの年齢層で報告されているよ。まだ注意が必要だね。

感染症に気をつけよう!!

2023年7月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 7月3日発行



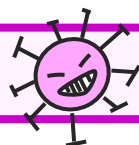
横浜市内の感染症流行状況



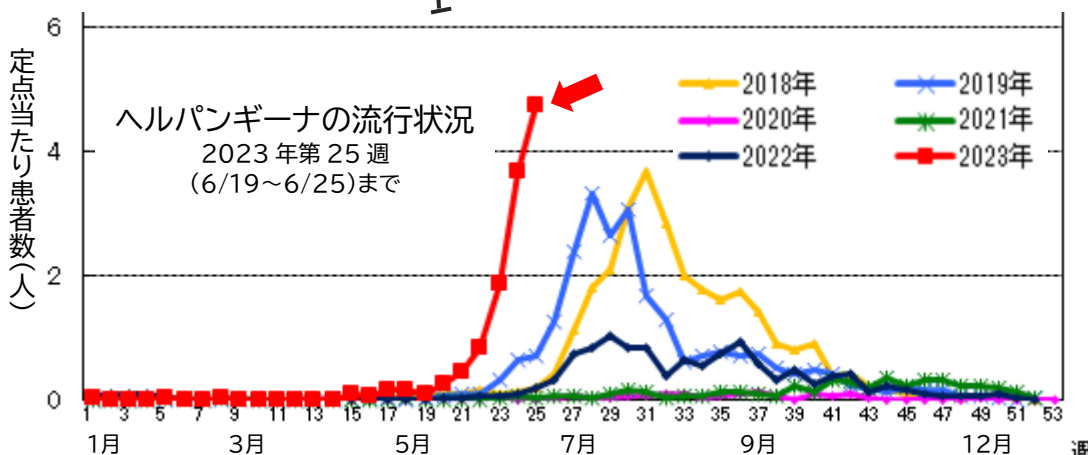
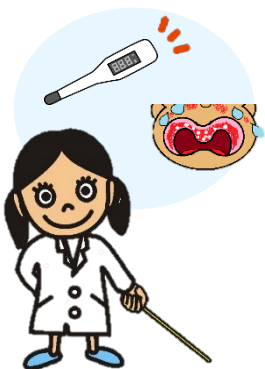
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
梅毒**	発生	横ばい	20~50代を中心にして、報告数の多い状況が続いています。【政府広報動画】【無料・匿名検査】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	増加	患者数が増加しています。集団感染の報告もみられます。【'19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス感染症*	流行	増加	5月8日以降、患者数の報告は定点報告に変わりました。幅広い年齢層で報告されています。
ヘルパンギーナ*	流行	増加	夏かぜのひとつです。5月下旬から急増し、過去6年間で最も多くなっています。【'16.8号】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症



ヘルパンギーナ



ウイルスが原因です。突然38~40度の熱が出て、のどが赤くなり、のどの奥に小さな水ぶくれ・潰瘍(かいよう)ができて痛みます。通常は1週間程度で治りますが、まれに、髄膜炎などの合併症が起こることもあります。発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに受診しましょう。

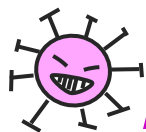
咳のしぶきや便に含まれているウイルスから感染します。症状が出てから4週間頃まで、便からウイルスが排泄されます。ワクチンはなく、予防にはうがいや石けんを使った手洗いが大切です。(アルコール消毒は効きにくいです。)



感染症に気をつけよう!!

2023年8月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 8月1日発行



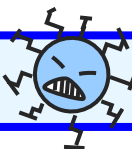
横浜市内の感染症流行状況



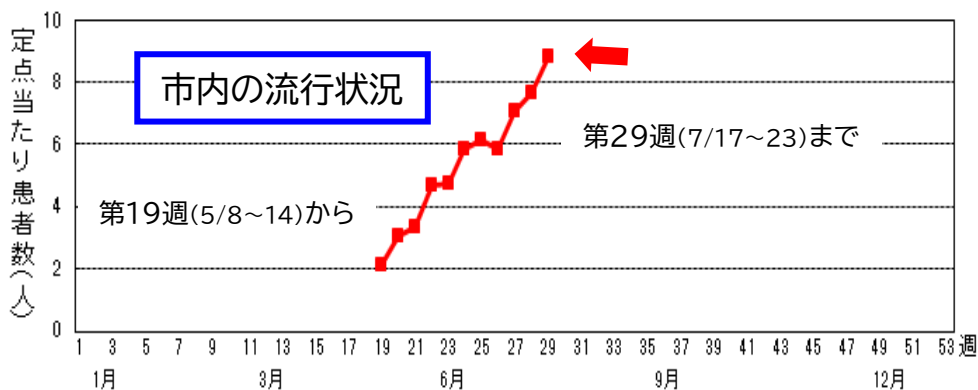
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
梅毒**	発生	横ばい	20~50代を中心にして、報告数の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	患者数が多くなっています。感染経路が不明の報告もみられます。【19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス感染症*	流行	増加	5月8日以降、患者数の報告は定点報告に変わりました。幅広い年齢層で増えています。

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

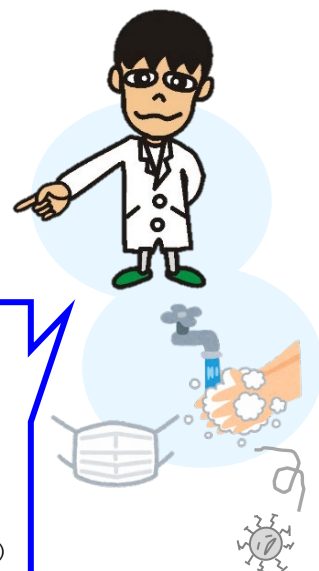
今、気をつけたい感染症



新型コロナウイルス感染症



高齢者は重症化しやすいでしょ。80代は30代に比べて、
70倍くらい重症化しやすいって調査があったよ。
**特に、おじいちゃんおばあちゃんと会う場合は、
感染予防を心がけて体調を整えるようにしなきゃ。**

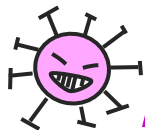


手や指に付着しているウイルスの数は、
石けんやハンドソープで10秒もみ洗いしてから流水で15秒すすぐと、
1/10,000に減らせるんだ。
自分と相手の両方がマスクを着用することで、
ウイルスの吸い込みを7割以上抑えるとの研究結果もあるよ。(内閣官房)

感染症に気をつけよう!!

2023年9月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 9月5日発行



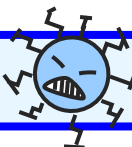
横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
梅毒**	発生	横ばい	20～50代を中心として、報告数の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	患者数が多くなっています。家族内の感染も報告されています。【19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス感染症*	流行	増加	5月8日以降、患者数の報告は定点報告に変わりました。幅広い年齢層で増えています。

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

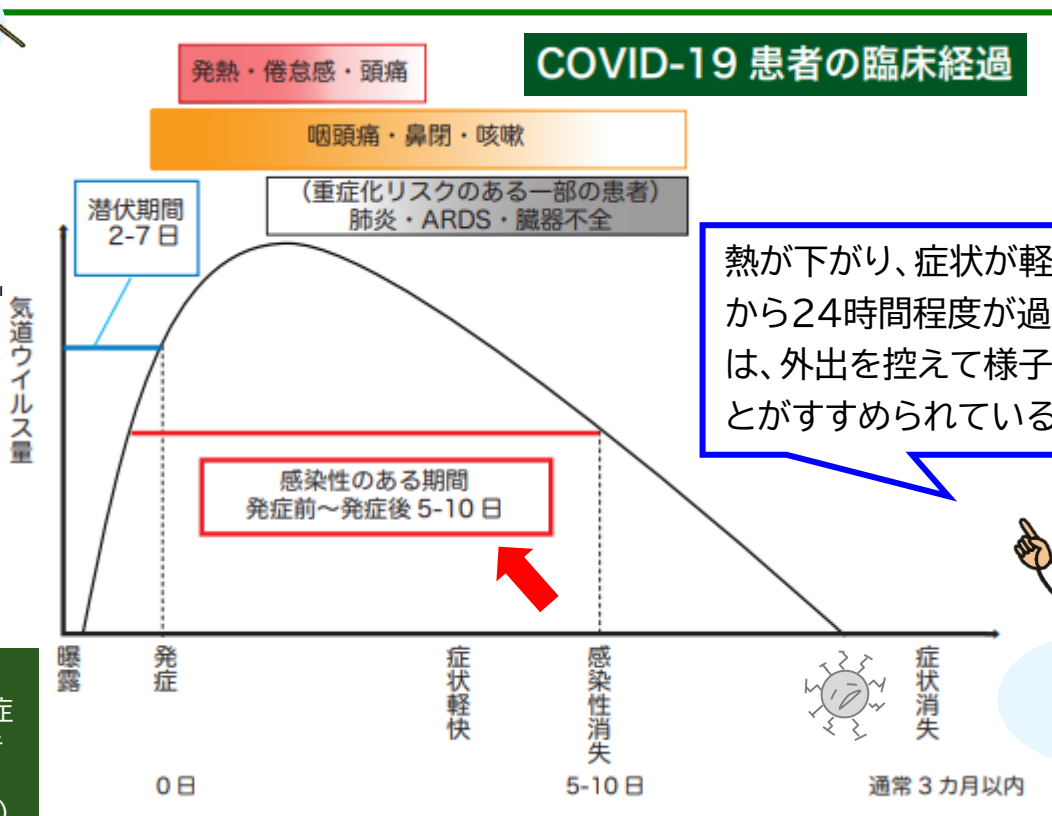
今、気をつけたい感染症



新型コロナウイルス感染症



かかってしまったら、発症後5日間は他の人に感染させるリスクが高いから、発症日を0日目として5日間は外出を控えた方が良いんだよね。**
もし、5日目になっても症状が続いていた場合は、どうするの？



熱が下がり、症状が軽くなってから24時間程度が過ぎるまでは、外出を控えて様子を見ることがすすめられているよ。

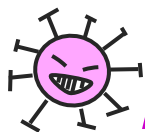


新型コロナウイルス感染症診療の手引き 第10.0版 図2-1 (引用)

感染症に気をつけよう!!

2023年10月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 10月3日発行



横浜市内の感染症流行状況

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症**	発生	横ばい	患者数が多い状態です。感染経路等が不明の報告もみられます。【19.9号】【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症*	流行	?	患者数の報告方法は定点報告に変わりました。幅広い年齢層で報告されています。【23.9号】
インフルエンザ**	流行	?	例年の同じ時期に比べて、多く発生しています。学級閉鎖も行われています。【臨時情報】
梅毒**	発生	横ばい	20~50代を中心として、報告数の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症

冬の感染症

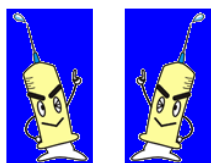
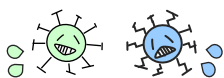
- 気温が低く乾燥している冬は、風邪、インフルエンザやノロウイルスなど、**感染症が流行しやすい**季節です。



- 感染症の種類は違っても、**基本的な予防対策は同じ**です。
- 感染(飛沫感染・接触感染)の経路を断つために、**咳エチケット****や**こまめな手洗い****をしっかりと行いましょう。
- 十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけて、**免疫力を高めておく**ことも大切です。



- 特に今シーズンは、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の**同時流行も心配**されています。



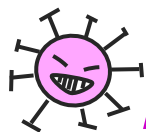
- インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは、**同時に接種することも可能**です。ワクチン接種について、**かかりつけ医に相談**しましょう。
- 横浜市では、令和5年10月1日~12月31日に**高齢者インフルエンザ予防接種**を実施します。



感染症に気をつけよう!!

2023年11月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 10月30日発行



横浜市内の感染症流行状況



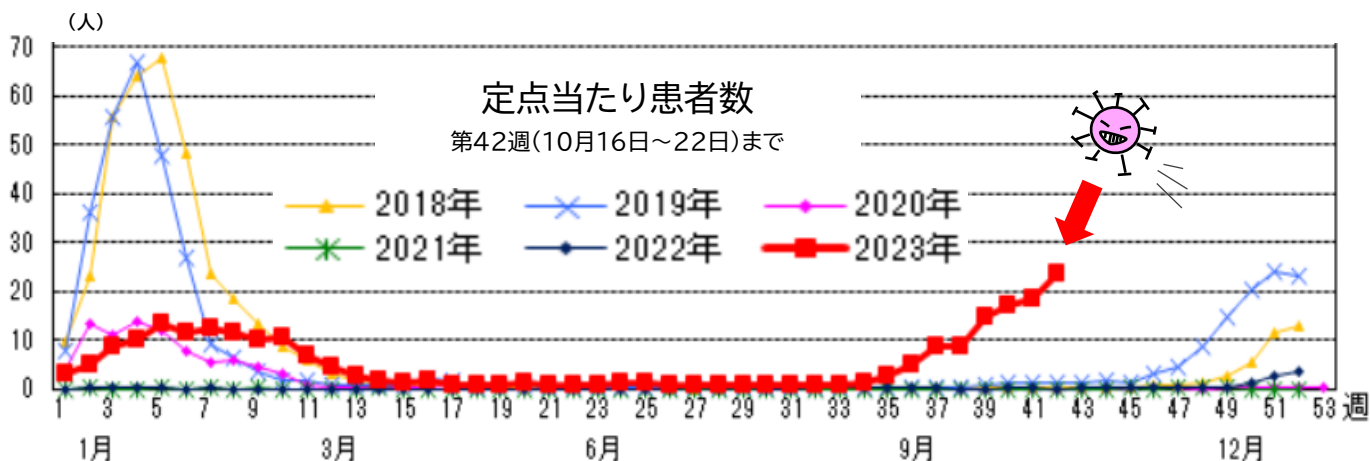
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ**	注意報	増加	例年の同時期に比べて、報告が多いです。10月5日に注意報が発令されました。【臨時情報】
梅毒**	発生	横ばい	20~50代を中心として、報告数の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】
咽頭結膜熱**	発生	増加	例年夏にピークがありますが、7月下旬からの増加傾向がまだ継続しています。【ちらし】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでインフルエンザの流行が低い水準だったとされているよ。そのこと等が影響して、インフルエンザウイルスのA(H1N1)亜型*やA(H3N2)亜型*の抗体を持ち続けている人の割合が、全ての年齢で低下傾向にあるんだって。**



つまり、今年はインフルエンザの流行が起こりやすい状況にあると考えられるんだね。例年より早い本格的な流行に、**咳エチケット**や**正しい手洗い****でしっかり備えよう。

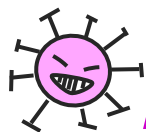
※ 亜型
ウイルスの表面にある突起の違いによる分類のこと。



感染症に気をつけよう!!

2023年12月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 12月4日発行



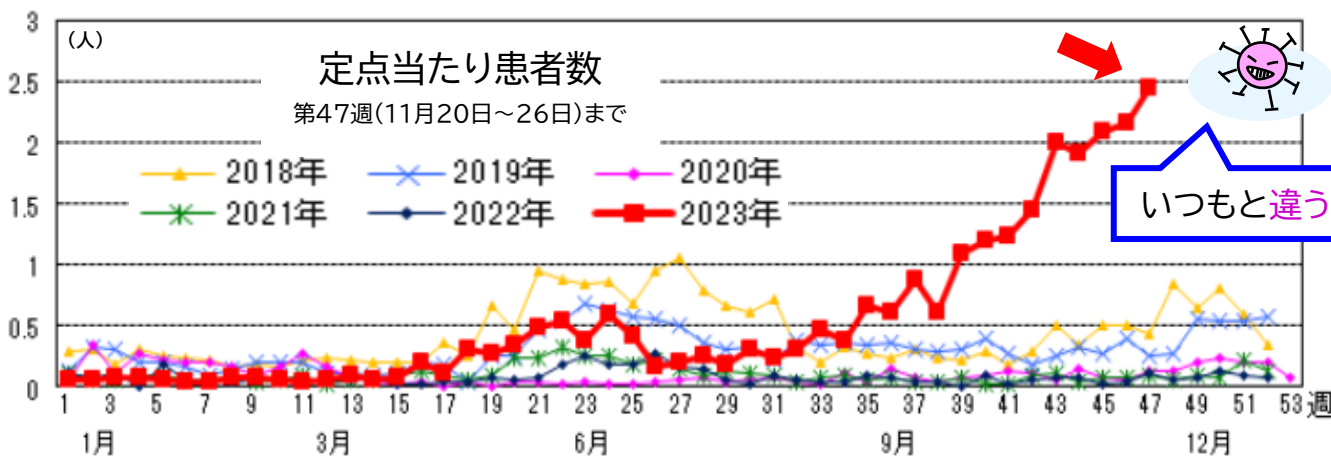
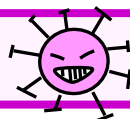
横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
咽頭結膜熱*	発生	増加	例年夏にピークがありますが、7月下旬からの増加傾向がまだ継続しています。【ちらし】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	発生	増加	10月下旬以降、増加が続き、過去5年間の同じ時期に比べて多くなっています。【'18.4号】
インフルエンザ**	注意報	増加	例年の同じ時期に比べて、多く発生しています。学級閉鎖も行われています。【臨時情報】
梅毒**	発生	横ばい	20~50代を中心として、報告数の多い状況が続いています。【政府広報 動画】【無料・匿名検査】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症 咽頭結膜熱



アデノウイルスが原因の、子どもに多い感染症。主な症状は発熱・のどの痛み・結膜炎で、3~5日間ほど続く。免疫機能の弱い人・乳幼児・高齢者などでは、重症になる場合もあるんだって。

患者の鼻水・だ液・便等にいるウイルスが、通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染でうつる。予防には、流水と石けんでの手洗い・うがいが大切。学校は、主な症状が消えた後2日が過ぎるまで出席停止とされているよ。



横浜市感染症発生動向調査事業概要
2023年(令和5年)

横浜市医療局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
2024年12月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462